

# こんにちは 松坂みち子 です



日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告

< 66 2012.2.19 > 連絡先 402-1622

## 滝畑の産業廃棄物最終処分場建設計画 について、市長と教育長に要望書提出

日本共産党市会議員団は、滝畑の産業廃棄物最終処分場建設計画について、昨年の議会で様々な観点から問題点を指摘し、今年に入って専門家に意見を聞く中で、地震との関係やこの地域の地質の問題から判断して、この計画はどの点からみても絶対に許可すべきでないとも指摘しました。

その上で、市長は許認可権者として計画全体を明らかにする責任があること。また産廃を搬出入するダンプによる問題は、地域住民からも大きな不安の声が寄せられており、搬入台数などについて、業者に事前協議の段階においても提示させること。市の責任で搬入路を調査し、搬入台数を試算すること。以上の結果を含め、計画全体を地域住民に明らかにすること。この計画の許可はしないことを要望しました。教育長には、通学路をはじめ



子ども安全面から業者に対して「意見を提示することを求めました。

対応した副市長は「慎重に対処したい。市長に要望の内容を伝える」。教育長は「来週教育委員会があるので、そこで要望の趣旨を報告したい」と述べました。

(松坂は出張中だったため、欠席でした。)

とてもいい香りに包まれ、訪問の目的もどこへやら、しばらくその場を離れられませんでした。

またこのお宅には三宅柑の木もあり、子どもの頃によく食べた三宅柑が木になっているところを見たのも、実は初めてでした。



### みち子のひとりごと ろうばい

毒があると聞くと、こわい感じもしますが、見た目は黄色いかわいらしい花が枝いっぱいについて、青い空とのコントラストがみごとです。ヘカラでないので、残念。花を触ってみると、花びらがひらひらしている感じが、蠟で固めたような感じが、前になつているので、この名前がなつかしいです。

2月4日、平和委員会の活動でお訪ねした湯浅町のあるお宅で、みごとな蠟梅を見せていただきました。

ロウバイと聞いて、まず「老梅」という字を想像してしまいましたが、実際は「蠟梅」。また名前に「梅」がついているので梅の仲間だと思つていたら、ロウバイ科という別の種類だそうなんです。またさらに調べてみると、「花やつぼみから抽出した蠟梅油(ろうばいゆ)を薬として使用する。種などには毒が含まれている」とあります。

2.11「新春のつどい」たくさんの方々のご参加、ありがとうございました。歌あり、笑いありの楽しい時間を過ごすことができました。

“新春の集い”での、国重さんのお話を紹介します

くにしげ秀明



消費税増税と大企業への減税、沖繩・名護市辺野古への新基地建設など、国民そつちの力で大企業やアメリカ政府のいうことには素直に耳を傾け、実行には執着する民主党政権の姿は目にあまり見られません。先日、国会質問で、政府は庶民の願いには冷たいとあらためて痛感しました。その質問とは、

8日の日本共産党山下よしき参議院議員の追及です。東北の仮設住宅のお風呂に、住民から強い要望がある「追い焚き機能を」と予算委員会でも求めました。家族が多いほどこの願いは切実です。野田首相も小宮山厚労相も、その要望は直接住民から聞いたとしながら、「改修が大がかりになるので困難だ」「今後の災害で風呂の仕様を見直す」と住民に背を向けました。

山下議員は、「凍えている5万世帯の被災者を見捨てるのか」と食いつ下がりました。仮設住宅での生活が何年にもわたる可能性もあるなかで放置することは許されないと重ねて要求。浴槽の交換無しでも15万円ほどで追い焚き機能付きの湯沸し機をつけた人がいることや、風呂用の電気保温機は2万円程度で販売されていることを示しました。山下さんはメーカーへの確認もしたそうです。

野田首相は、提案を勉強したいと答えざるをえませんでした。総理も大臣もホント、お粗末です。住民の声に真摯に耳を傾け、何とかしなくてはという気持ちにはみじんも感じられませんが、政治の大きな方向を誤っている政治家には、庶民の日々の生活で出てくる願いも受け止めることができない、そう感じました。

